

報告

ニューヨークでの短期研修を終えて

佐藤恵里花

国立病院機構仙台医療センター 初期研修医 2年

(2023年12月6日受稿、2023年12月6日受理)

1. ニューヨーク研修について

私は2023年9月11日月曜日から15日金曜日まで、第16回米国短期海外研修に参加させていただいた。医学生時からこの企画の存在自体は知っていたが、新規感染症の世界的な大流行により中止となっていたところ、幸運なことに今年から再開となった。今回、このような貴重な機会を与えていただき、米国日本人医師会、東北大学病院卒後研修センター、宮城県医師育成機構の皆様には厚く御礼申し上げます。

2. ニューヨーク近郊の診療所

初日の月曜日にはニューヨーク東京海上記念診療所 (Mount Sinai Doctors Japanese medical practice) のハーツデイルというところにあるプライマリケアと内科診療を主に提供している診療所で Ban 先生の外来診療の様子を見学させていただいた。この診療所はニューヨーク最大の医療機関グループ



Japanese medical practice Hartsdale の先生方 (後列中央) と引率の先生 (両端)、見学させていただいた研修医 (前列)

「マウントサイナイ・ヘルスシステム」によって運営されるクリニックのうちの1つである。ハーツデイルはマンハッタン近郊の町で、診療所は住宅に囲まれており、近隣の方が来院していた。

Ban 先生は感染症が専門の先生で、ここではプ



Japanese medical practice Hartsdale の受付



左: Ban 先生

ライマリケアを提供していた。内科総合診療についてレクチャーもしてくださったが、思考プロセス自体は日本とほぼ同じに感じた。一方で、疾患のリスク計算スコアに人種の項目がある点や、患者のプロフィール欄に性別と並んで言語の欄がある点で日本と多民族国家であるアメリカの違いを感じた。また、アメリカは医療費が非常に高額で、国民皆保険ではないため患者によって医療保険が異なる。保険によって処方できる薬も患者毎に異なっており、それに合わせて処方する必要があると知りとても驚いた。ほかにも、患者が自身の血液検査の結果をインターネットで見ることができ、その結果説明も、結果が問題なければ電話で説明して終わらせることができるとのことで、効率化されていると思った。

3. Iwahara 先生

火曜日から金曜日は Iwahara 先生にお世話になった。Iwahara 先生はお父様の代からマンハッタンで消化器内科のオフィスを経営されている。火曜日と木曜日は内視鏡センターで内視鏡検査を、水曜日と金曜日は Iwahara 先生の診療所での外来診療を見学させて頂いた。



中央：Iwahara 先生
Iwahara 先生の診療所にて

4. マンハッタンの内視鏡センター

火曜日と木曜日には Manhattan endoscopy center に伺った。ここはグランドセントラル駅のすぐ近くにある日帰り内視鏡センターである。オフィスビルに囲まれており、ビルのワンフロアが内視鏡センターになっていて内視鏡室が5部屋ある。



Manhattan Endoscopy Center にて

向かいのビルではオンライン会議をしているのが見えた。Manhattan では開業医の先生が自身の病院に内視鏡を設置するための条件が非常に厳しいため、内視鏡検査をする複数の開業医の先生方が協力してこの Manhattan endoscopy center を設立したとのことだった。Manhattan Endoscopy Center では全例、患者1人に1人の麻酔科医がついてプロポフォールで鎮静をかけて内視鏡を施行していた。アメリカでは内視鏡検査をする際、ほぼ全例で麻酔をかけると聞いた。それにより、医師が内視鏡の手技に集中できること、患者の苦痛が少ないこと、といった利点があると学んだ。また、患者1人毎に技師さんも1人付いており、スクリーニング検査中にすぐポリペクトミーを行うことができると知った。患者の満足度は高いようだったが、1日にできる検査数や麻酔科医数を考えると日本で同じことをするのは現実的には難しいと思われた。

5. Dr Iwahara's Office

水曜日と金曜日には Iwahara 先生の診療所で Iwahara 先生の外来診療を見学させて頂いた。Iwahara 先生の診療所はセントラルパークの西側にあり、綺麗なアパートメントが立ち並ぶエリアにあった。Office という呼び方についてだが、日本では開業医の名称でよくクリニックが使われるが Iwahara 先生の診療所のような所は Office と呼ぶのが一般的だと Iwahara 先生の奥様が教えて下さった。アメリカでは、クリニックとは、多くの患

者を診察・治療し、とにかく「量」を診るといったタイプの医院のことで、日本で言うと、いわゆる国民健康保険などを使って治療するタイプの医院のことを言う。一方オフィスは患者にゆっくり時間をかけて、診察・治療をするタイプの医院のことで、日本では自費の治療のように、余裕・ゆとりをもって患者を診る医院のことであるそうだ。Iwahara 先生は初診の患者が来ると、診察室に通す前に応接間のような部屋でまず問診をしていた。その部屋には一枚板のテーブルと肘付きのソファがあって、コンサルタントと依頼主が依頼内容を相談しているような雰囲気であった。問診が終わると診察室に患者を移動させて丁寧に身体診察をしていた。問診の内容や身体診察の方法自体は基本的には日本と大きな違いはなかったと思うが、丁寧に行い患者とのコミュニケーションを重視している点で印象的であった。また、スタッフの方と日本とアメリカの医療の違いについて話す機会があり、アメリカでは保険会社が医師の報酬を決めると聞きとても驚いた。

6. 最後に

今回のニューヨーク研修を通して、日本では経験することのできない多人種に対する医療やアメリカの医療制度を学ぶことができた。検査や処方薬を患者の保険を考慮する必要がある点で日本との違いを強く感じた。自身の普段の診察を振り返り、国民皆保険だからといって安易に検査や処方を出すことはせず、自身の診察能力を高めていきたいと思った。

最後になりましたが、お忙しい中、時間を割いてご指導頂いた Ban 先生、Iwahara 先生、引率していただいた先生方、事前資料作成に当たりご協力頂いた院長先生、鈴木靖士先生、準備に携わっていただいた全ての方に心から御礼申し上げます。今後もこの研修プログラムが継続、発展していくことを強く願っております。